

## 読者投稿欄「なまず通信」

神奈川県温泉地学研究所観測だより（以下、観測だより）では、読者の皆さまからの投稿欄を設けています。掲載記事に関するご意見・ご感想はもとより、皆さまが地震や温泉などについて身近に感じている事柄や、温泉地学研究所に対する叱咤激励などいろいろとお寄せいただければと思います。

○原稿は楷書体でお願いします。

○出来るだけ多くの方のご意見を掲載させていただくため、お一人様の文字数を全角で200字程度までとさせていただきます。

○紙面や編集の都合上、お寄せいただいた全ての原稿を掲載出来ない場合や、お送りいただいた文章を当所において一部編集して掲載させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

○お送りいただいた個人情報に関しては、当所において適正に管理するとともに、観測だよりのみに使用し、

目的外使用は一切行いません。

○投稿形式は自由ですが、このページ下段に簡単な投稿様式を用意しましたので、ご利用下さい。

（四角枠で切り取って、普通はがきに貼れるサイズとなっています。）

### 送付先について

郵送・FAX・フォームメールでお受けしています。宛先は下記までお願いします。

郵送：

〒250-0031

神奈川県小田原市入生田586

神奈川県温泉地学研究所

編集部会 宛

FAX：0465-23-3589

フォームメール：[https://cgi.pref.kanagawa.jp/contents/form\\_mail/request\\_form.php](https://cgi.pref.kanagawa.jp/contents/form_mail/request_form.php)

「お問い合わせ内容」のところに  
ご記入下さい。

### お便りのご紹介

前号（第62号）を送付した際に、読者の皆様からのご意見やご感想をお寄せいただきました。掲載可としていただいたハガキやメール中から一部を紹介させていただきたいと思います。

東京都 丸山様；

観測だよりをお送り下さり有り難うございました。多くの記事を興味深く拝読させていただきました。

兵庫県 荻野様；

梅雨が明けたと報じられましたが、毎年のことですが末期の豪雨はつきものですが、人は過去のことを忘れるのですね。

静岡県 渡辺様；

東北地方太平洋沖地震の際、地震が起こる前と起きた後の地下水の水位変化のデータはないのでしょうか。

お名前：

ご住所：〒

(TEL： — — )

ご意見等：

お名前・住所（市町村名まで）の観測だよりへの掲載について

掲載可 匿名希望 その他(具体的に： )

過去の兵庫県南部地震の時には地下水の水位変化があったと聞いていますが、今回はどうだったでしょうか。

愛知県 河原様；

富士山の微動地震や噴火等いろいろ言われていますが箱根ではなにか変化はありますか？

名古屋市 久田様；

東北地方太平洋沖地震以後の余震は、従来の定義の説明を超える特質を持つようになりました。1985年にメキシコ地震を現地調査しましたが、社会の仕組みも変遷し情報化社会の今日に事後対応の研究が急がれます。貴研究所の地元に近い富士山の地殻の研究の最新レポートを期待します。

横浜市 梅田様；

いつも楽しく見させていただいております。なまず通信の頃より参加しています。地電流の観測を行っています。

田島様；

観測日より第62号有り難うございました。アイスランドの地熱発電について興味を持って読ませていただきました。

上杉様；

温泉めぐりは、毎回、楽しみにしております。今回は、自分が行ったことがある堂ヶ島温泉でした。フムフムと懐かしく読ませていただきました。こういう出版物が全都道府県であると素晴らしいのですが。

#### 編集後記

観測日より第62号の読者の方々からお送り頂いた葉書・FAX・メール等のご意見・ご感想を掲載させて頂きました。誌面の都合上、抜粋さ

せて頂いたり、掲載出来なかったお便りが多数ありましたことをお詫び申し上げます。

東北地方太平洋沖地震が発生してから2年が経過しましたが、被災された地域では復興はまだ道半ばであります。科学的な観点からも、どうしてあの地震がマグニチュード9の巨大地震になったのか、またどうして東北沖でのそのような巨大地震が想定できなかったのか、様々な角度から検討が続いている段階です。

一方、あの地震より引き起こされた災害の記憶を後世まで残していくことは、残された私たちがすべき重要なことの一つだと思われまます。本号のトピックスでは、現地で偶然この震災を経験された二宮町在住の矢吹さんから、「東日本大震災の被災体験」を執筆していただきました。また、この震災は普段生活している地域で、過去にどのような地震や津波災害があったかを正しく知っておくことの重要性を私たちに知らしめました。トピックスで掲載しました「鎌倉の明応津波～大仏殿は流されたのか？」（鎌倉で過去に発生した最大級の津波に関する考察）や、「地震の石碑復刻版の紹介」は、神奈川県で過去に発生した地震や津波の災害を知るための一つの手がかりになるのではないかと思います。

東北地方太平洋沖地震が私たちに突きつけたもう一つの大きな課題、それは福島第1原発事故によるエネルギー問題であると思います。あの事故以降、再生可能エネルギーに対する期待が一気に高まっています。その中の一つが地熱エネルギーです。日本列島には活火山がたくさんあり、地熱エネルギーは日本における再生可能エネルギーとして非常に有効であるという意見が多くあります。一方で地熱エネルギーの利用にはまだまだ克服しなければなら

い課題が多くあるというのも事実です。そうした課題については、トピックス「温泉と地熱発電に関わる最近の2つの動きについて」の中でまとめられております。

本号の観測データ報告の中でも簡単に紹介してありますが、箱根火山での地震活動が2013年1月初旬頃から活発になりました。2ヶ月間で約1800個の地震が観測されましたが、3月末現在では、地震活動低調になりつつあります。この活動において10回程度の有感地震が発生し、箱根カルデラ内で下から突き上げるような揺れを感じた方々も多かったようです。東北地方太平洋沖地震後ということもあって、一連の箱根の地震活動は、多くの人々から注目されました。ご存じの方も多いと思いますが、箱根の地震活動についてテレビや新聞などでも報道されました。報道を聞いて、箱根は大丈夫なのかと心配された方も多いのではないのでしょうか。時々刻々と変化していく箱根火山の情報を、一般の方々に正しく誤解のないように伝えるにはどうすればよいかという問題は、国際的な観光地である箱根に近い温泉地学研究所が考えていかなければならない重要な課題だということが改めて実感させられました。

最後になりましたが、これまで4年間にわたり「なまずの会」会長を務めてこられた吉田明夫所長が、平成25年3月をもって退職となりました。吉田所長が在任の期間中には、東北地方太平洋沖地震、2009年8月、2013年1月以降の箱根火山での活発な地震活動など大きなイベントが起きました。こうした中でも、ご自身のこれまでの経験を踏まえ、我々研究員の指導を通して、監視活動や調査研究活動の向上にご尽力いただきました。この場をお借りして、ご報告させていただきます。